

医療行為は倫理的判断の積み重ねから成り立っている

大西 秀樹

医療現場では、手術や投薬などの侵襲的な処置、治療方針に関する意思決定などが数多くあることから、倫理的な配慮が常に求められることは言うまでもない。したがって、医療従事者は倫理について学び、実践する必要がある。

医療行為における倫理原則として、①患者の利益になるようにする（与益原則）、②患者の害にならないようにする（無加害原則）、③患者の自立を尊重する（自立原則）、④正義ないし公平を保つ（正義原則）という4つの基本的原則がある。しかし、治療を行うにあたり原則同士が対立する場合があるため、原則間の調整として、二重結果の原則、均衡性の原則なども考慮しなければならない。

当日は、臨床例を通して、医療従事者の治療根拠となっている倫理的な配慮について解説したい。